

# 授業実施評価レポート

2023 年度 基盤教育センター

## 1. 2022 年度の状況

### ① 成績評価アンケート

基盤教育科目の成績評価アンケートの結果は、全学部全学科においておよそ 90%の学生が透明性・客観性・妥当性・公平性の全てにおいて不足する科目がないと回答しており、概ね良好であったと思われる。しかし、人間社会学部 4 年生において無回答が多かったため、今後は正確な結果が導き出せるような工夫・指導が必要であると考えている。また、人間形成学科の 4 年生において、「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が 1 名いた。1 名ではあるが、「いくつもあった」と回答していることは、今後再検討する必要があると考えている。

社会福祉学科と人間形成学科において、教養演習に関して、成績方法の判定や教員ごとに授業内容が異なるなどの記述が見られたので、今後検討する必要があるとも考えている。

さらに、自由記述において、看護学科では、検討してほしい科目に関する自由記述は 1～4 年生までの全学年を通して全く記載なかったことは、多くの学生が成績評価に対して概ね納得していると考えられたことから、概ね良好であったと思われる。人間社会学部では、英語 I-(2)、英語 III 及び健康科学実習に関するコメントがあり、担当教員へ確認の必要性が指摘されていた。

「英語 I-(2)」については、人間形成学科 1 年生より「成績のほとんどが発表（テスト）できまること（原文のまま）」というコメントがあった。それに対し、担当教員に対して、基盤教育センター教員がアンケート結果の報告と状況確認を行ったところ、「成績評価は、発表（テスト）、課題、授業の参加度、英語外部テストで評価している」という回答を得た。センターとしては、学生に誤解があれば、評価の提示に仕方を検討するよう改善することを助言した。「英語 III」では、公共社会学科 2 年生より、「毎回出席し、提出物も課題も忘れたことがないのに、成績が C だった（原文のまま）」というコメントがあった。担当教員に状況確認を行い、「成績評価は、テ

スト、課題、授業の参加度、英語外部テストで評価している。また、課題等は提出しただけでは評価されず、内容も重視している。」との回答であった。センターの会議では、学生には課題の内容が重要であることをオリエンテーションで説明し、担当教員は課題や評価方法等を学生にフィードバックすることを求めた。「英語Ⅰ」、「英語Ⅲ」の担当教員は英語母語話者であるが、評価方法については日本語でも説明するよう依頼した。さらに、「健康科学実習」に関しては、人間形成学科 1 年生より「レポートのみの評価はやめて欲しい（原文のまま）」とのコメントがあった。担当教員に確認したところ、「レポートのみでの評価はしておらず、課題や授業の参加度も評価に含めている。また、オリエンテーションでも説明済みである。」との回答があった。センターからは、常時学生には成績評価方法を周知させる必要があり、授業中に資料を配布する、或いはEラーニング上に掲載することを求めた。3科目とも、学生の誤解がないように、メッセージの出し方を考慮する必要があると考えられる。

憲法および政治学に関するコメントがあり、担当教員へ確認の必要性が指摘されていた。

「憲法」については、人間形成学科 2 年生より「15 回授業の内容が全範囲であり、試験はノート持ち込み可ではありますが、大事な所をノートに取って望んだのに、授業中等話も聞かずにプリントを丸写しして望んだ人の方が成績が良くプリントを全部ノートに写した方が良かったのかと納得がいかなかったです。（原文のまま）」というコメントがあった。それに対し、担当教員に対して、基盤教育センター教員がアンケート結果の報告と状況確認を行ったところ、「プリントとは授業の提示資料を印刷したものであり、試験範囲はその全体であることを明示している、また授業中のおしゃべり等受講態度については現在も対処しており目立って受講態度の悪い学生を放置していることはなく、今後も継続して留意し、授業態度からくる不公平感には気をつけたいとのことであった。」という回答を得た。したがって、センターとしては特に大きな問題は生じておらず、格段の対処は行う必要はないと判断した。さらに、「政治学」については、「コロナ感染が怖いのでオンライン授業申請をしたが、何度も教室に来るように強いられた。（卒業生）（原文のまま）」というコメントがあった。それに対し、担当教員に対して、基盤教育センター教員がアンケート結果の報告と状況確認を行ったところ、「科目担当教員は対面授業を求める発言を

した記憶がないが、誤解される発言がないよう注意していきたい。」とのことであった。したがって、センターとしては特に対処を行う必要はないと判断した。

## ② 成績分布及び受講者数

教養科目は選択必修だが、受講者が200名を超える科目がある一方、20名を下回る科目(数学概論、物理学)も見受けられた。科目の必要性や妥当性について確認した結果、学生の興味関心をもとに今後再検討していくこととなった。

成績に「不可」が多い科目は特に多くなく、成績判定はおおむね良好と思われた。

受講者全員が成績Sだった科目が1科目あった。その受講者全員が成績Sだった科目「科学史」については、次年度以降に再度検討したい。

教養演習では、ほとんどの担当で、S評価とA評価となっていたうえ、S評価が0のところも見受けられた。科目の特徴も考慮しながらも、年度初めのガイダンスにおいて評価方法や成績評価方針に加え、Sの評価基準を担当教員で再確認および共有することとした。成績Aの割合が、「倫理学」(84.1%)、「アート論」(95.7%)、「性教育学」(71.6%)、「入門・数字で見る日本社会」(68.6%)の4科目で特に高く、成績評価に偏りが見られた。そこで、評価方法や成績評価方針について特に多い2科目について確認をとったところ、「倫理学」に関しては、今後、評価方法を再検討することとなった。アート論については、受講者数や科目の特徴から、問題ないと判断した。

教養演習では、19名の担当で、S評価とA評価で9割を超えていた。今年度の教養演習の担当者に本データ等をフィードバックし、成績評価について厳密な評価をお願いした。

「外国語科目」において、SとAの成績者のみで7割を超える科目が18科目中10科目あった。そのうち仏語に関しては、成績Sが5割を超えていたため、担当教員(非常勤講師)に評価方法や成績評価方針について確認を取り、「過去、レベルの高い授業をしたことにより、不合格者を多く出した反省から、教科書を平易にして、学生にフランス語が分からないと思わせないように授

業や試験を実施した結果で成績 S が多くなった。今後は教科書や内容を検討し、対応を考える」とする回答を得た。

情報処理科目において、S と A の成績者のみで 7 割を超える科目が 8 科目中 6 科目あった。そのうち 3 科目では、S と A の成績者のみで 100%となっていたため、評価方法や成績評価方針について確認を取ったところ、「情報処理演習 I、II の成績評価は、日々の課題の取り組み状況から判断している。しかし、年々高校の情報に関する授業内容が高度化し、パソコンを活用する機会が増えたことで、学生にとって本授業の課題の難易度が低くなっているようである。今後は成績評価を見直し、同時に課題の難易度を少し高くすることで対応する」との回答を得た。

また、「情報処理の基礎と演習」では、「昨年はオンデマンドで授業を実施し、授業動画を作成し、同時に対面でも質問ができるような時間を設けフォローが出来たことで好成績につながった。しかし、上位成績者が多かったことから、次年度以降はもう少し高度な内容を指導する。」との回答であったため、次年度の状況を見ることとした。

「情報処理応用演習」においては、「対面授業での指導に加え、授業動画も作成し、更に課題質問もメール等で適宜対応できる仕組みを作ったことで、好成績につながった。成績 S に偏っていることから、今後は採点をもう少し厳格化することで対応する。」との回答を得たので、問題ないと判断した。

健康科学科目では、S と A の成績者のみで 7 割を超える科目が 5 科目あった。評価方法や成績評価方針について確認を取ったところ、次のような回答が得られた。

- ・「健康科学実習 I」では IC 以外すべて 7 割を超えているが、例年同様の評価方法で行っており、これまではこのようなことがなかったことから、当該年度の学生は意欲が高く、能力が優れていたものと考えられる。センター会議では、今後の状況を見て、変化がない場合は学修評価の見直しを検討することとした。

- ・健康科学実習 II では福祉 (II B) のみが 8 割近くになっているが、同履修者が受講した IB でも同様に 8 割近いことから、受講学生の能力が特に高いと思われるため、経年で様子を見て、この状態が続けば評価基準の見直しを検討する。

・保健理論においては、S と A の割合が 96% と高かったが、意欲の高い学生が多く、テストの回答も出来が良かったことからこのような割合になった。一方、現在の講師は 1 年目であり、学生の様子もわからなかったことから、次年度以降はもう少し難易度を上げていくことも検討している。センター会議では、次年度の状況を見て、変化がない場合は評価基準の見直しを依頼することとした。

## 2. 2022 年度レポート対応プランの結果

- ① 2021 年度では、憲法および政治学において、評価方法等に関するコメントがあったため、学生の生の声を真摯に受け止め、講義の改善に努めるように教員間でコメント内容等を共有することとした。その結果、2022 年度では、類似したコメントは減ったことは、講義の改善に努めるように教員間でコメント内容等を共有した成果であると評価している。
- ② 2021 年度では、自由記述において「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が 1 名ことから、今後教養科目の改善に向けて検討した。その結果、2022 年度では、「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答するような学生やコメントはなくなった。
- ③ 2021 年度では、科目の性質に関わりなく S 評価に大きく偏る科目や、S と A 評価が 8 割を超える科目があり、授業内容の難易度を引き上げて偏りが生じないように担当教員間で周知することとした。その結果、2022 年度では、S 評価に大きく偏る科目や、S と A 評価が 8 割を超える科目が減り、うまく対応できたと考えている。また、教養演習などの基礎的知識や技術を学ぶ科目に関しては、成績方法の判定や教員ごとに授業内容が異なる状況が見られたので、教員間での偏りなどがないように、教員間の情報交換の場を設け、周知改善したが、2022 年度でも依然偏りが見られるため、再度対応・再検討することとしている。
- ④ 2021 年度では、オーラルコミュニケーション I、II については、担当教員が英語母語話者で学生とのコミュニケーションが全て英語でなされるため、学生との意思疎通が十分ではなかったことが分かった。成績評価基準についての説明は特に明確に行い、学生の発表においては公平な機会を与えるよう確認して指導したことにより、非常勤講師からは改善したとの報告があ

った。その結果、2022 年度では自由記述のコメントがなかったことで、教員間で情報を共有し、評価や発表に関して改善された結果であると思われる。

- ⑤ 2021 年度では、Introduction to Studying in English の受講者数増加に向けた対応としては、2022 年度より両学部生が受講しやすい時間帯に時間割りを調整し、新学期のオリエンテーションにおいて科目の紹介を行うことが検討された。

2022 年度では、前年度の時間割（水曜日 2 限）から木曜日 2 限に変更し、受講生が 9 名と増加した。

### 3. 対応プラン

- ① 教養科目は選択必修だが、受講者が 200 名を超える科目がある一方、20 名を下回る科目(数学概論、物理学)も見受けられた。科目の必要性や妥当性について確認した結果、学生の興味関心をもとに今後再検討していくこととした。
- ② 受講者全員が成績 S だった科目が 1 科目あった。その受講者全員が成績 S だった科目「科学史」については、次年度以降に再度検討したい。
- ③ 教養演習では、ほとんどの担当で、S 評価と A 評価となっていたうえ、S 評価が 0 のところも見受けられた。科目の特徴も考慮しながらも、年度初めのガイダンスにおいて、担当教員で評価方法や成績評価方針を共有した上、昨年度データ等を担当教員にフィードバックし、成績評価について厳密な評価をお願いすることとした。
- ④ 憲法および政治学において、評価方法等に関するコメントがあった。担当教員に確認し、その回答から、特段の問題はないと判断した。ただし、このようなコメントも、学生の生の声であり、真摯に受け止め、講義の改善に努めるように教員間でコメント内容等を共有する予定である。
- ⑤ 自由記述において「妥当性が不足する科目がいくつもあった」と回答した学生が 1 名いた。1 名ではあるが、「いくつもあった」ということから、今後教養科目の改善に向けて、長期的に問題点を洗い出していきたいと考えている。

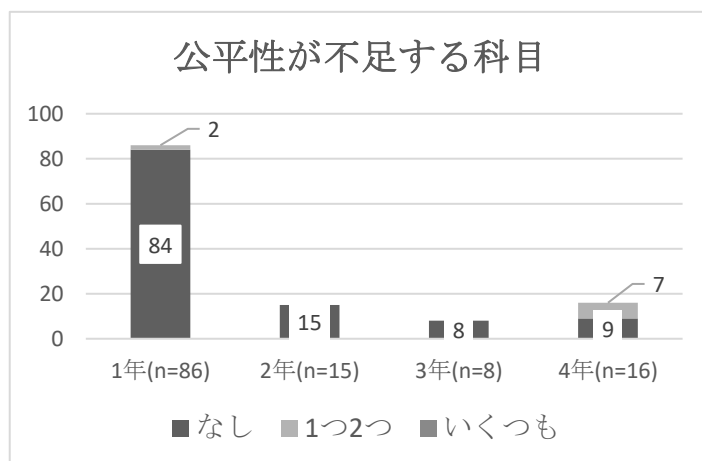
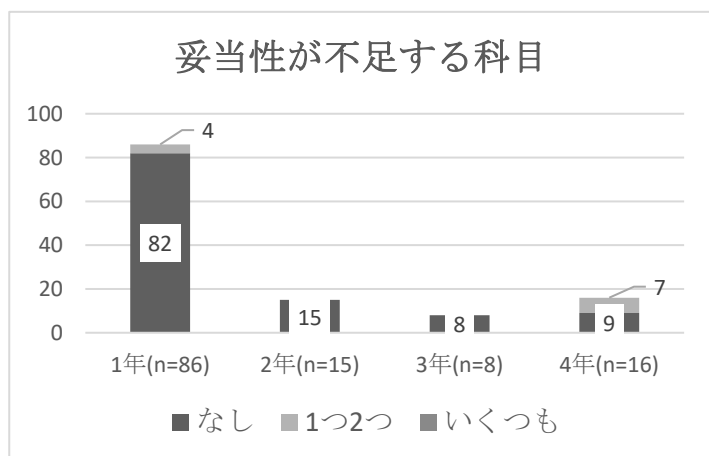
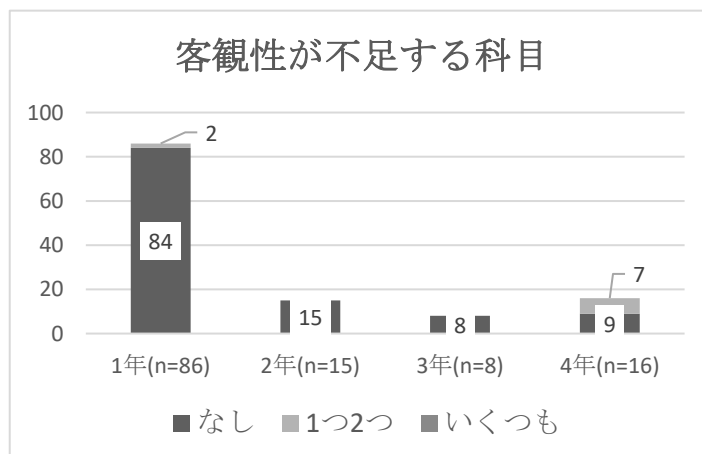
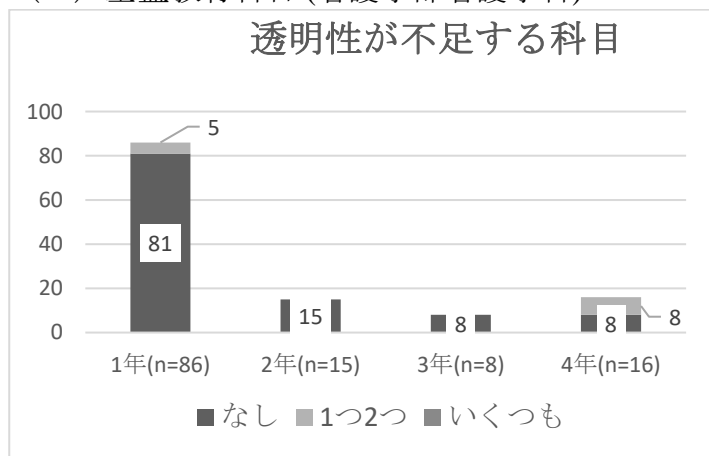
- ⑥ 科目の性質に関わりなく S 評価に大きく偏る科目や、S と A 評価が 8 割を超える科目については、授業内容の難易度を引き上げて偏りが生じないように、再度センター内の担当教員間で周知行く予定である。また、教養演習などの基礎的知識や技術を学ぶ科目に関しては、成績方法の判定や教員ごとに授業内容が異なるなどの記述が見られたので、教員間での偏りなどがないように、教員間の情報交換の場を設け、前年度データ等を担当教員にフィードバックし、成績評価について厳密な評価をお願いすることとした。

#### 添付資料

- ・ 成績評価アンケート結果
- ・ 科目成績分布及び受講者数

## ・成績評価アンケート結果

### (1) 基盤教育科目(看護学部看護学科)



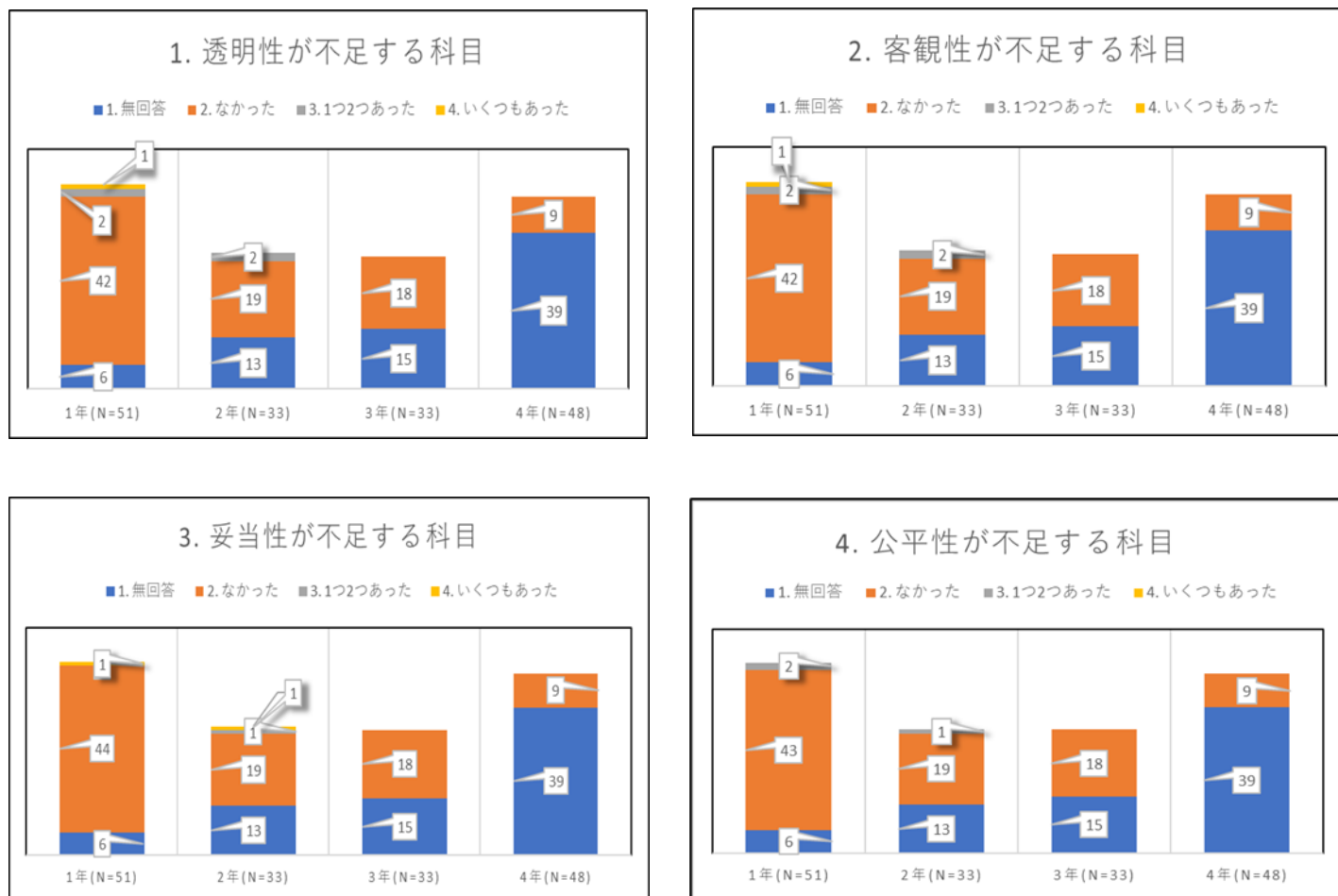
### (1)-2.結果について

1. 基盤教育科目の評価については、いずれの項目も1~3年生については90%~100%の学生が不足する科目はないと回答していました。ただし、4年生に関しては、回答者はすくないものの44~50%の学生(16名中7~8名)において、いずれの項目についても、受講した基盤教育科目の1つか2つには不足する項目がある科目があったと回答していた。
2. 学年別では、2~4年生で基盤教育科目を受講する学生が全体の20%以下となっており、基盤教育科目の受講は1年生に集中していた。
3. 検討してほしい科目に関する自由記述は1~4年生までの全学年を通して全く記載なかったことは、多くの学生が成績評価に対して概ね納得していると考えられました。
4. 以上の結果から、ほとんどの学生が成績評価に対して概ね納得していると考えられました。

図1 基盤教育センター 基盤教育科目(看護学部看護学科)全体の成績評価アンケート結果



## (2) 基盤教育科目 (人間社会学部公共社会学科)

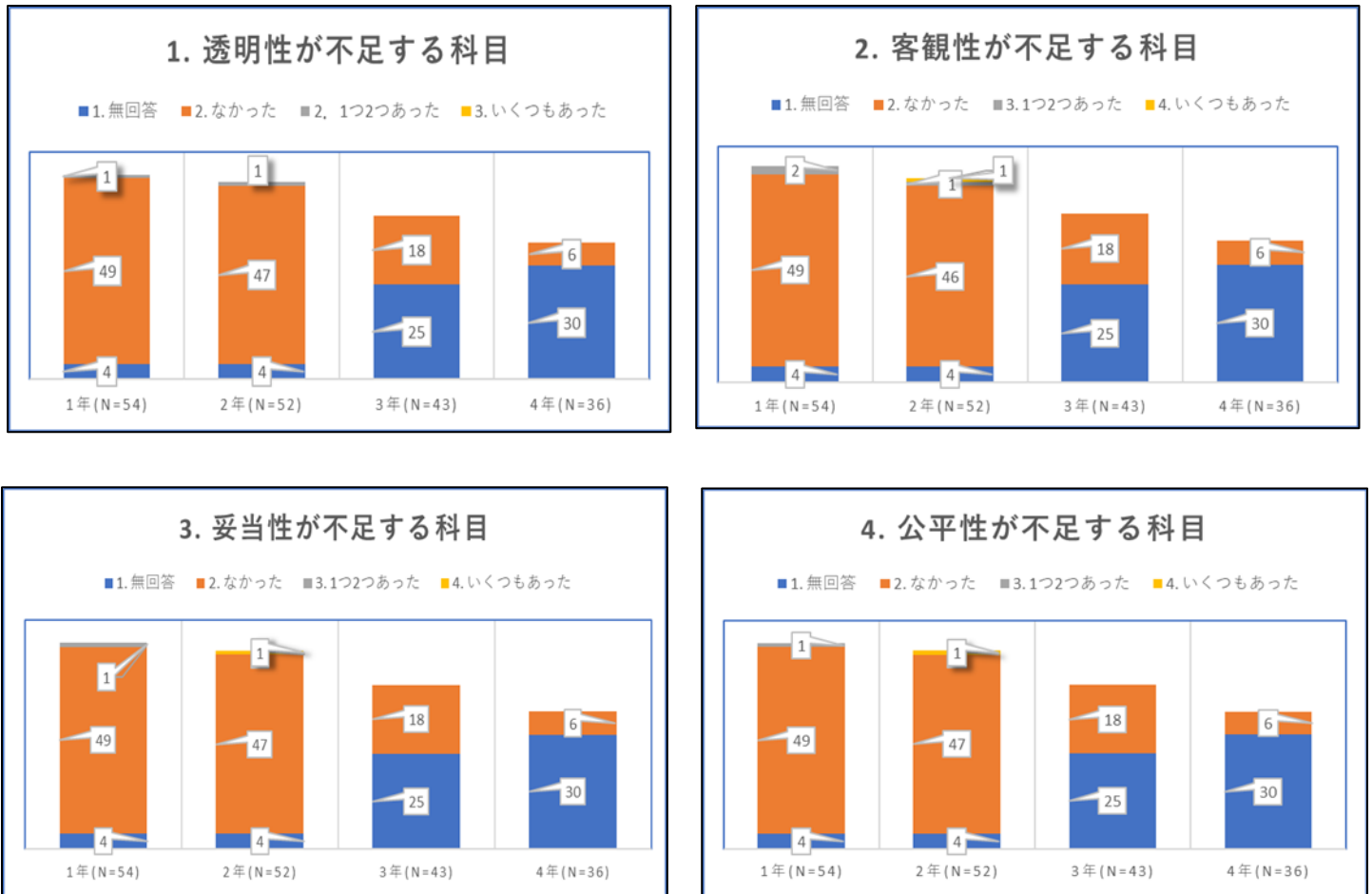


### (2)-2. 結果について

1. 公共社会学科では、基盤教育科目の成績評価に関する4項目において、「そのような科目がいくつもあった」という回答は1でした。1年生では、「無回答」が6名、また約83%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「客観性」が2名となっています。2年生においては、13名が「無回答」でした。また「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「客観性」が2名、「妥当性」が1名となっています。
2. 2年生の自由記述において、「英語Ⅲでは、毎回出席し、提出物も課題も忘れたことがないのに、成績がCだった」との意見が挙げられています。シラバスに評価方法は記載されていますが、講義内でも説明する必要性が考えられます。

図2 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 公共社会学科)の成績評価アンケート結果

(3) 基盤教育科目 (人間社会学部社会福祉学科)

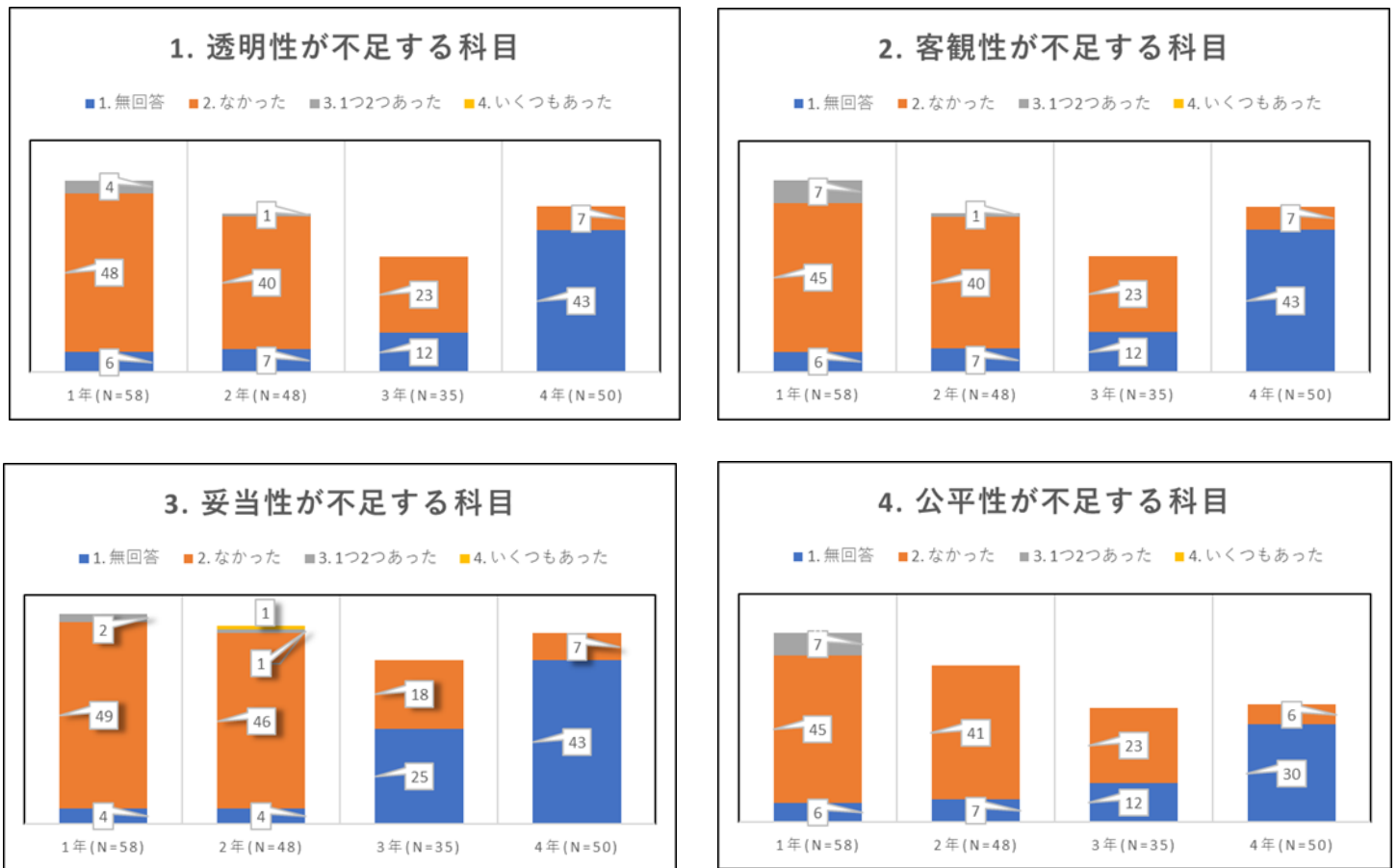


(3)-2. 結果について

1. 社会福祉学科では、基盤教育科目において「客観性・妥当性が不足する科目がいくつもあった」との回答はそれぞれ1でした。(2年生)
2. 1年生では、「無回答」が4名、また約90%が4項目において「なかった」と回答しています。「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「妥当性」が1名、「客観性」が2名となっています。2年生においては、4名が「無回答」、約90%が4項目において「なかった」と回答しています。また「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「客観性」が1名となっています。

図3 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 社会福祉学科)の成績評価アンケート結果

(4) 基盤教育科目 (人間社会学部人間形成学科)



(4)-2.結果について

1. 人間形成学科では、基盤教育科目において「透明性、客観性、妥当性、公平性が不足する科目がいくつもあった」との回答はありませんでした。2年生では、「なかった」が約83%、「無回答」は7名でした。「1つ2つあった」との回答は、「透明性」と「客観性」が各1名となっています。1年生においては、「無回答」が6名、「なかった」が約80%でした。「1つ2つあった」は、「透明性」が4名、「客観性」が7名、「妥当性」は4名、「公平性」は7名となっています。特に「客観性と公平性が不足する科目が1つ2つある」と回答した学生が各7名と、多くなっています。

2. 1年生の自由記述において、「英語1-(2)では、成績のほとんどが発表(テスト)で決まること」、「健康科学実習では、レポートのみの評価はやめて欲しい」との意見が挙げられており、4項目について不足する科目が「1つ2つあった」という回答が他学年より多くなっています。シラバスに評価方法は記載されていますが、講義内でも説明する必要性が考えられます。

図4 基盤教育センター 基盤教育科目(人間社会学部 人間形成学科)の成績評価アンケート結果

・科目成績分布及び受講者数

(1) 基盤教育センター 教養科目全体の成績分布

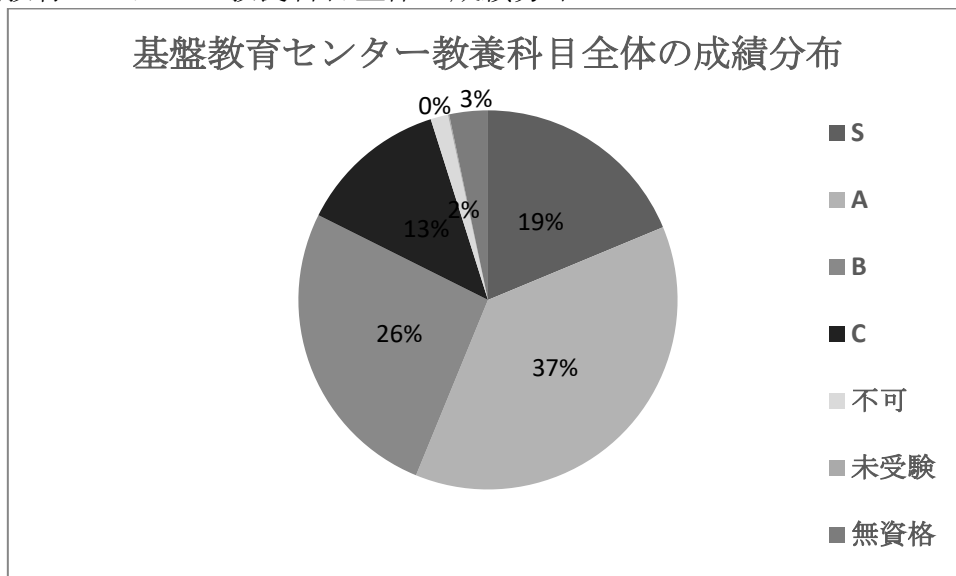


図5 基盤教育センター 教養科目全体の成績分布

(2) 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績分布

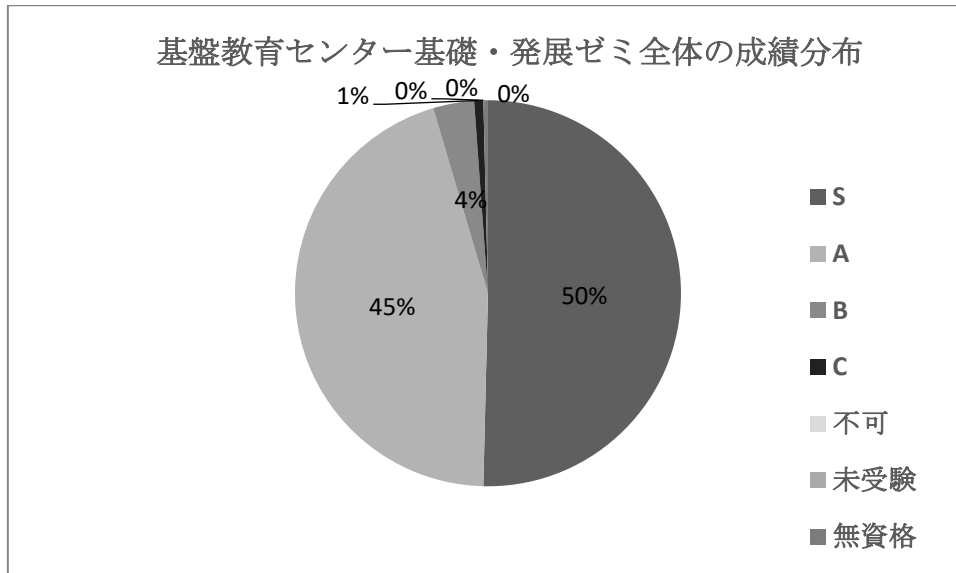


図6 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミ全体の成績

(3) 基盤教育センター 言語科目別の成績分布

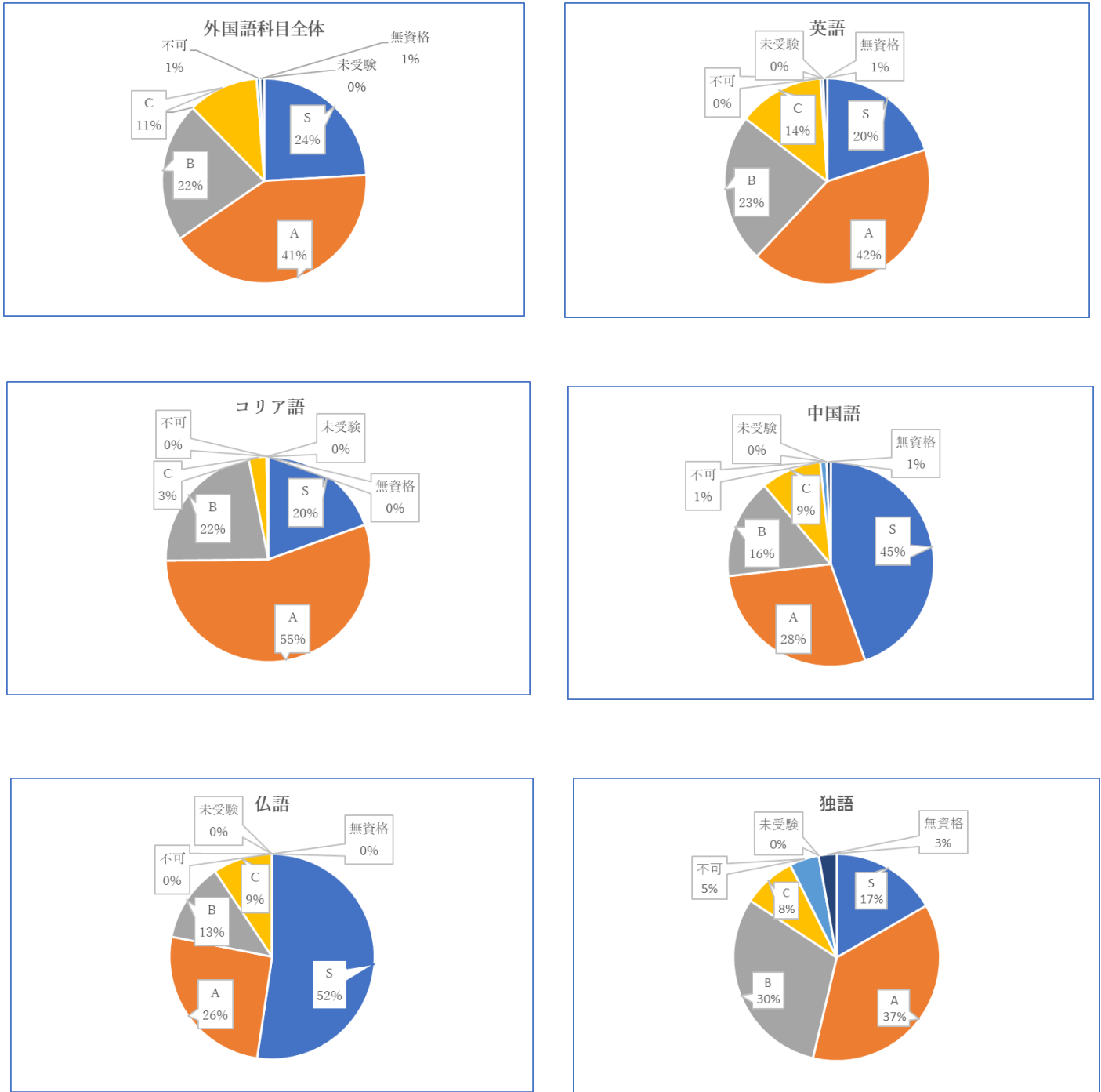


図7 基盤教育センター 言語科目別の成績分布

(4) 基盤教育センター 健康科学、情報科目の成績分布

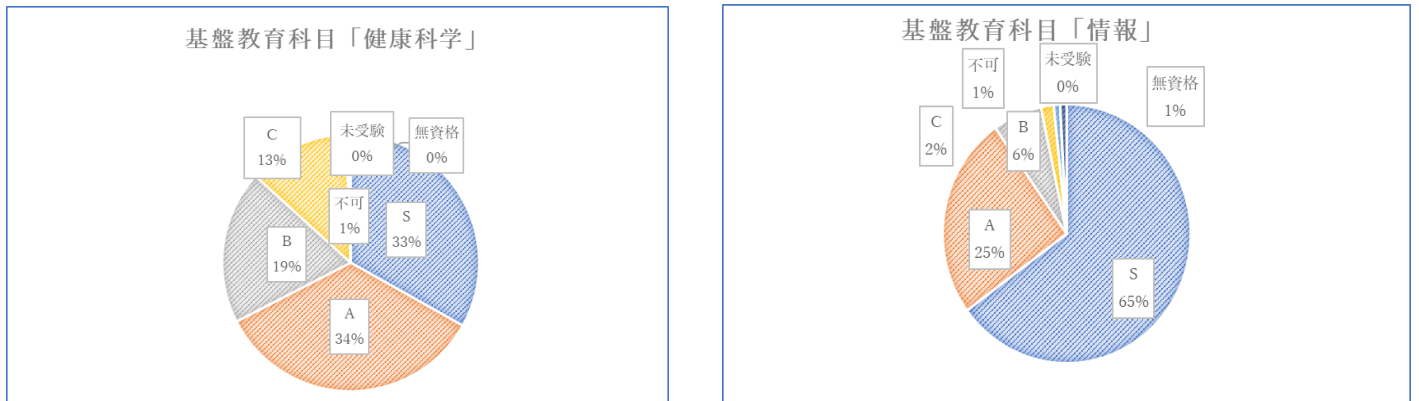


図8 基盤教育センター 健康科学、情報科目の成績分布

(5) 各授業の成績分布

① 教養科目

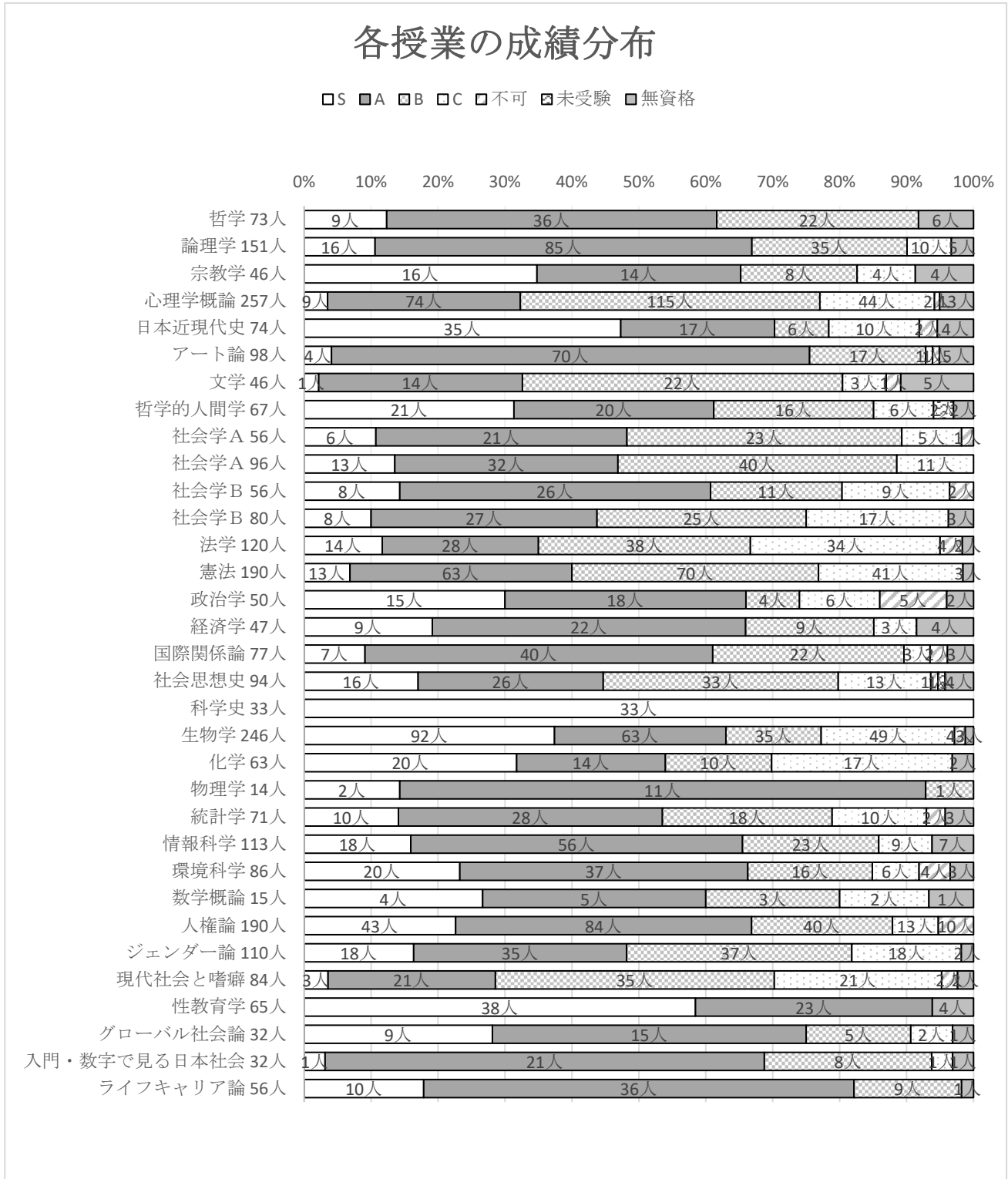


図9 基盤教育センター 教養科目の成績分布

② 基礎ゼミ・発展ゼミ

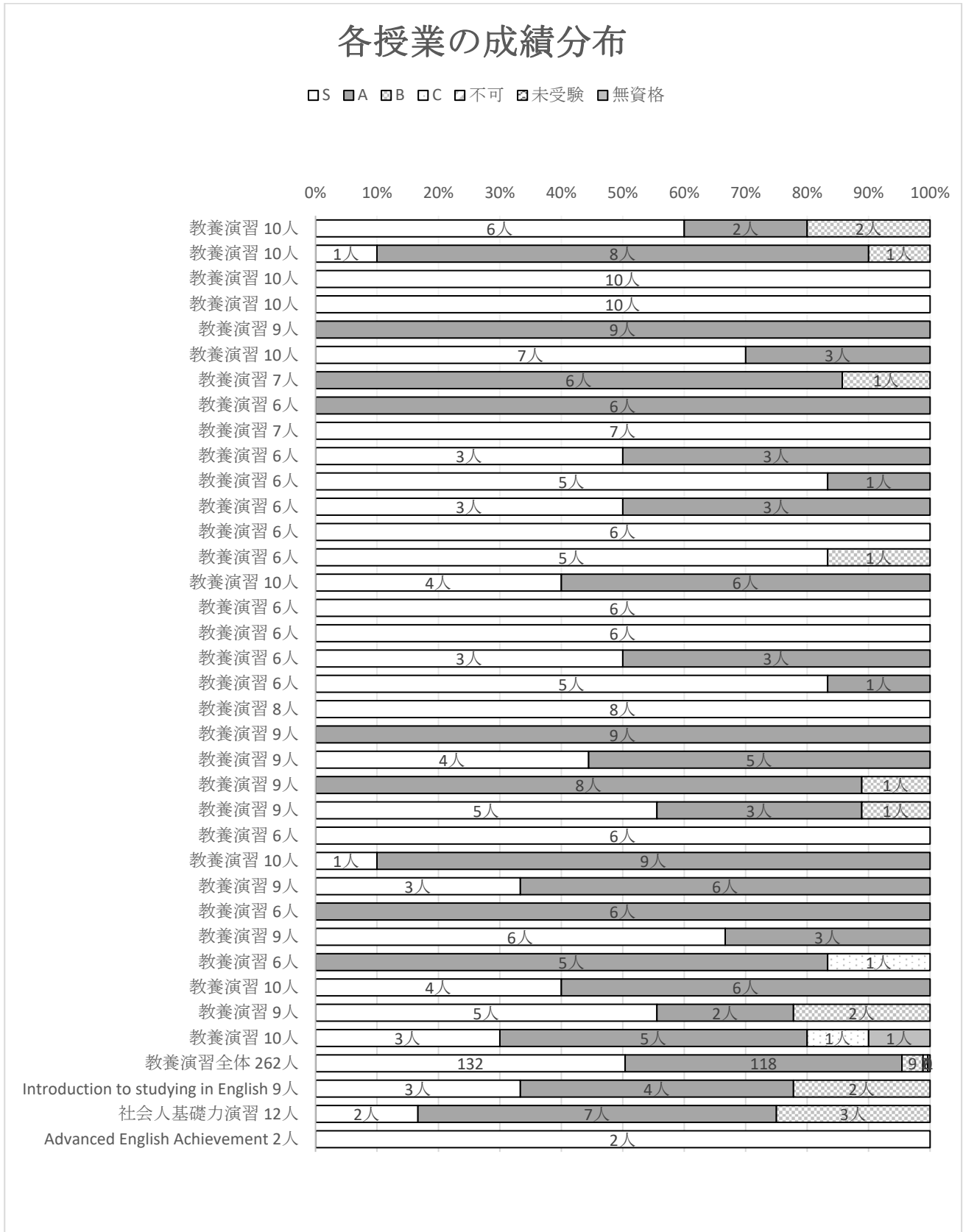


図 1 0 基盤教育センター 基礎ゼミ・発展ゼミの成績分布



③ 言語科目

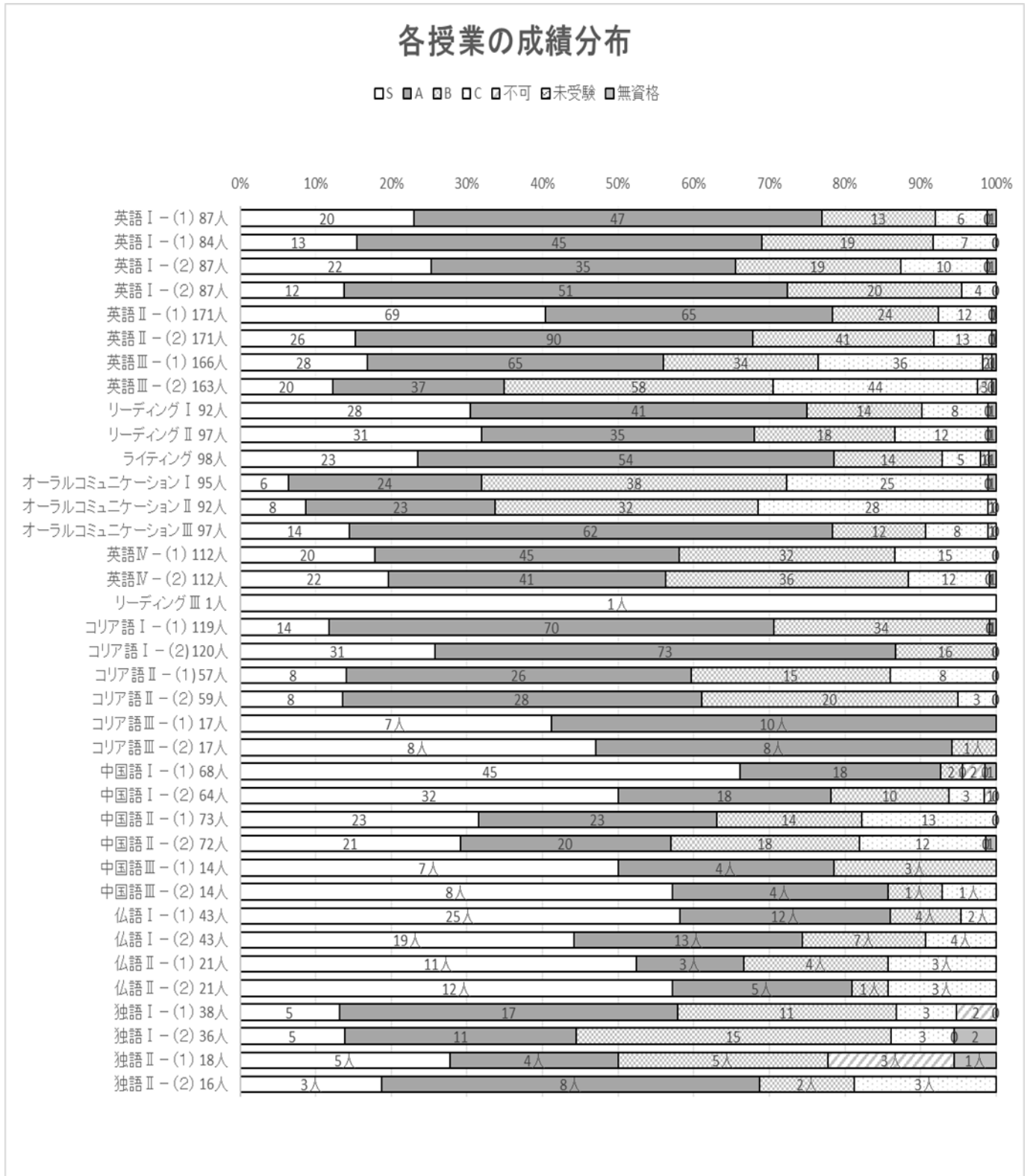


図 1 1 基盤教育センター 言語科目の成績分布

④ 健康科学

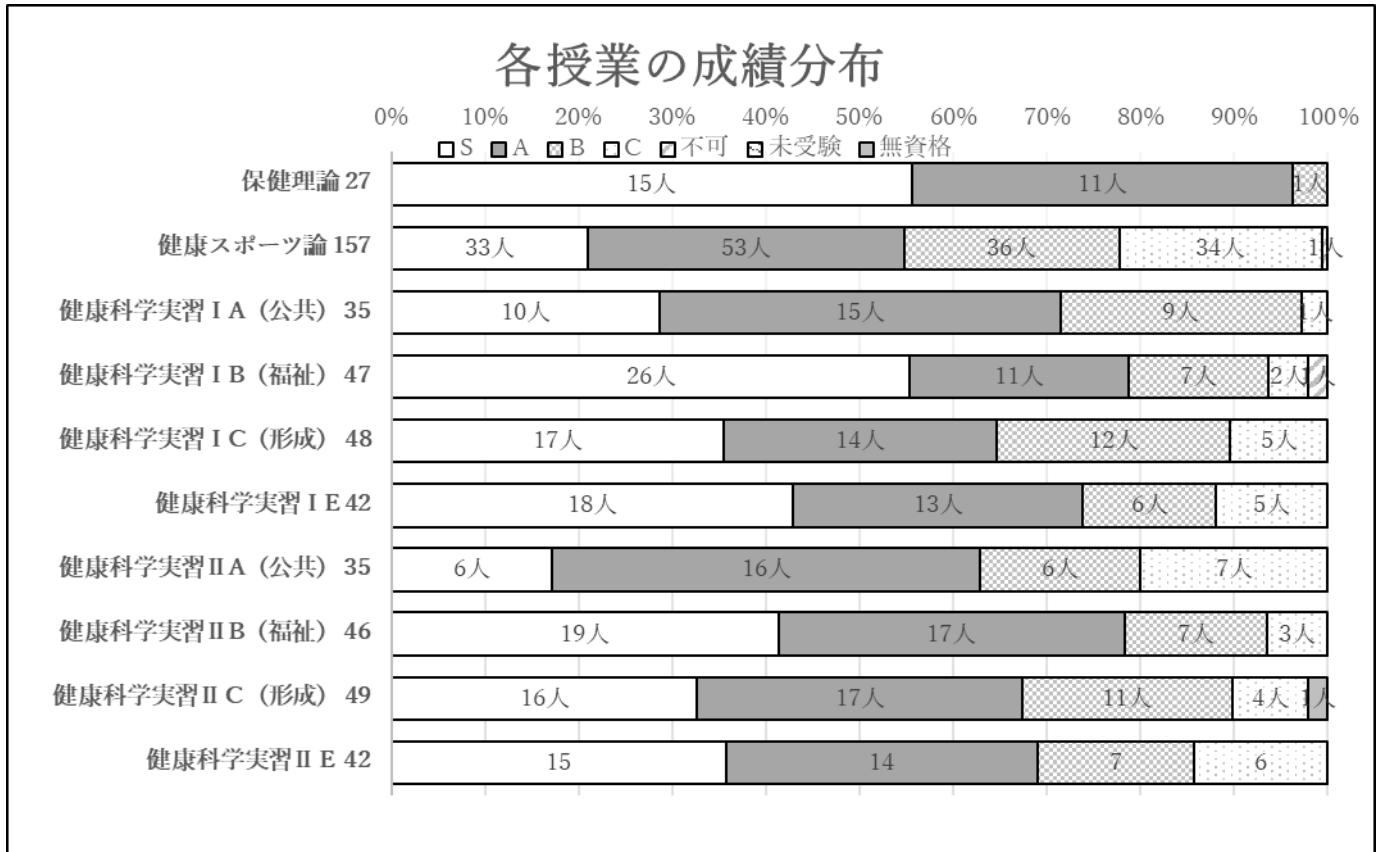


図 1 2 基盤教育センター 健康科学の成績分布

⑤ 情報科目

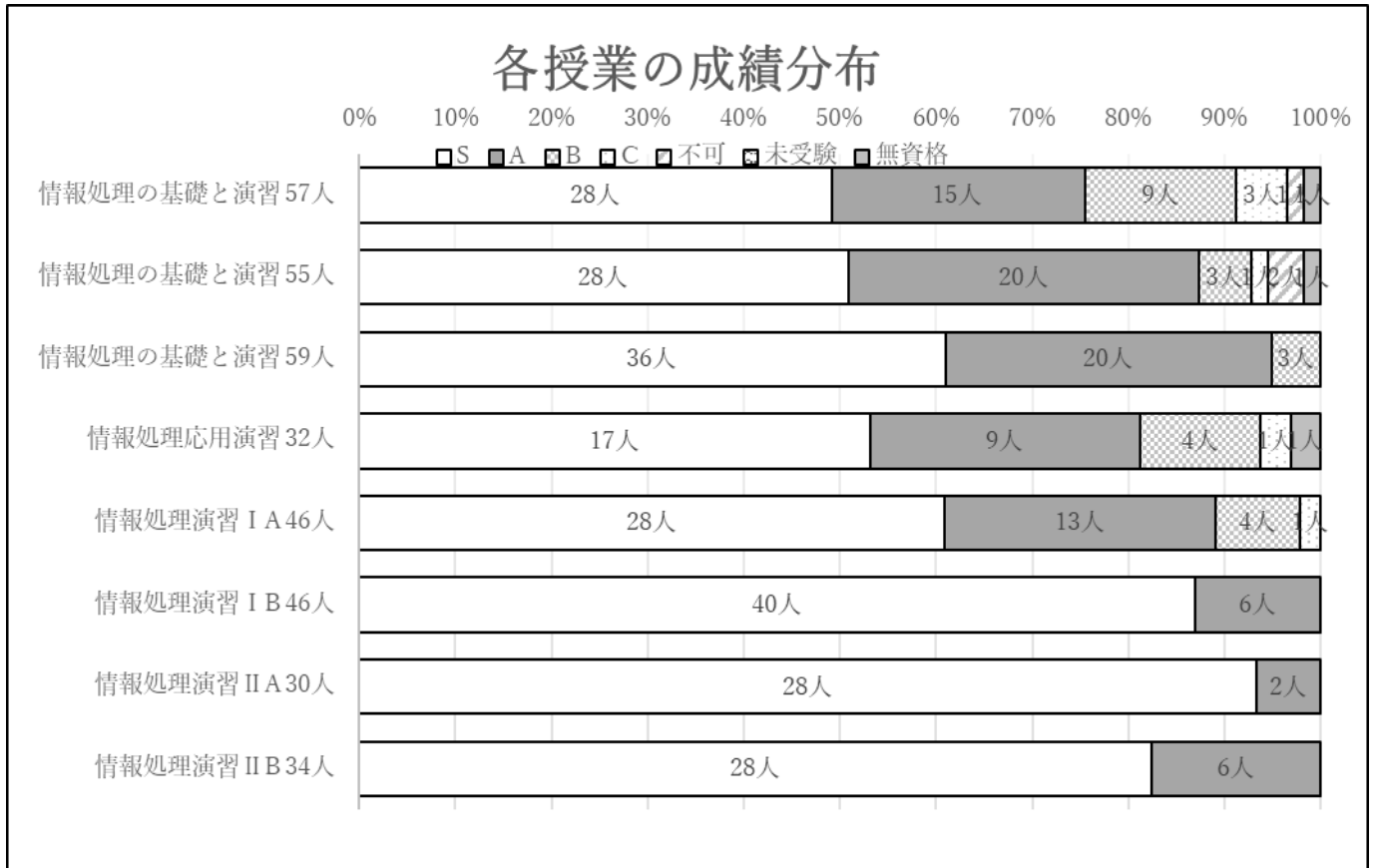


図 1 3 基盤教育センター 情報科目の成績分布